

国際

# こだいら



2008年  
No.56

*Kodaira International Friendship Association News*



2008年10月19日(日)

第33回 小平市民まつり パレード

# パレードに参加して

KIFAとして約10年ぶりに参加した、小平市民まつりのパレード。総勢30人あまりがセクシーな衣装を着たベリーダンスの美女集団を先頭に、6カ国16人の外国の方々はそのそれぞれの国の民族衣装や法被をまとい、国旗を振りながら笑顔であかしあ通りを練り歩きました。KIFAが今回久しぶりに参加するということを知って応援に駆けつけて下さったというボランティアの方のお言葉、沿道から「いいね!がんばって」という応援の声のおかげで、楽しく胸を張って歩くことができました。皆さん本当にいい笑顔でした。外国の方々もパフォーマーとして日本のお祭りに参加することは貴重な体験になったのではないのでしょうか。ぜひ来年、再来年と続けていければと思います。



## イタリア よもやま話

11月1日(土)3時から4時半まで、今年度協会のイタリア語講師をしていただいているマリオ・ヴォットさんがお話ししてくださいました。「日本とイタリアでは面積はどちらが広いと思う?」クイズ形式で広さ・人口・山・川・・・と、基本的なことについて確認していきます。国土は日本より少し狭く30万km<sup>2</sup>強で、人口は約半分の6千万弱。一番高い山はフランスとの国境にあるモン・ブラン。一番長い川は北部アルプスから発するポー川です。地図を見ながら都市の位置当てもやりました。イタリアの国の始まり、名前の由来、国旗の変遷、マリオさんの故郷・ナポリの事についてなど、スクリーンでカラー図絵や写真を映しながら歴史の授業さながらの興味深いお話が続きました。

ラスト30分の質問コーナーも、途切れることなく手が挙がり盛り上がったのですが、マリオさんのお答えの中から幾つかを、ご紹介したいと思います。

- イタリアでは日本のような「白いごはん」を食べることはまずない。  
マリオさんは見た目が色もなく、味もない「白いごはん」は食べる気がしないそうです。
- 「スパゲティ・ナポリタン」を初めて見たのは(食べたのは)日本の東久留米にある沖縄料理のお店だった。

- イタリア人は地震に慣れていないから、いざ起きると震度3ぐらいでも被害が大きくなる。
- 「石の文化」の国だから日本のように火事は多くないが、古い建物が崩れる事はある。  
マリオさんご自身、かつて道を歩いている時にベランダが落ちこちる場面を、一度目撃された事があるそう。



## 外国人のための 茶道入門



11月8日から毎週土曜日全5回で行なわれる茶道入門の初日にお邪魔しました。韓国・中国・ベトナム・スウェーデン・アメリカの方々が参加されています。今回は裏千家の作法を、先生方が優しくかつ丁寧にご指導下さっていました。

まずはお茶をいただきました。先に出て来たもみじの形のお菓子里に『きれい!!!』『おいしいです!!!』と感嘆の声があがりました。

お茶をいただいた後は、茶道の基本中の基本といわれる『ふくささばき』を教わりました。お茶をいただいた時とは違って、きめ細やかにあるきまり事に戸惑

いながらも、みなさん真剣な顔でさばき方を練習していました。

最後に感想をきいてみました。『お菓子がとてもきれいです。』『正座はつらいけれど頑張ります!!!』などの感想と一緒に、お茶を教わるのが初めての方も2回目という方もみなさん『楽しいです!!!』と笑顔で答えてくれました。



## 国際こどもクラブ

ゼネガル  
Zenegal

セネガルはアフリカ大陸の西のほうにある国です。10月11日(土)セネガルから一橋大学に留学しているチャオ・マリーさんによる異文化理解講座が行われました。参加した4~6年の小学生は21人でした。“マリーと呼んで下さい”と明るくにっこり。それだけで教室はリラックスしたムードになりました。



地図を見ながら、セネガルは何の形に見える?とクイズでスタート。(答えはこの号のどこかに)アフリカは暑いイメージがありますが、半島なので夏は東京よりも涼しいそうでみんな意外だったようです。それから国旗の意味(緑=自然、黄=金、赤=血)やダカールラリーで有名な事など楽しく学びました。また、マリーさんの家から見た景色のスライドを見せてくださいました。子ども達もまるでマリーさんの目を通してなつかしむように町の様子を見ていました。高校は島にあって、毎日舟で行くそうです。髪は沢山みつあみをして、制服を着て。

スライドの後は女の子にはお待ちかねの民族衣装の試着タイム。そして最後はゲームをして遊びました。

大きな輪になりリーダーが歌を歌いながら両手を裏、表に返し、歌が止まった所で、リーダーの手の向きと違う人が負け。1人、勝ち残るまでやります。ゲームも盛り上がった所で時間となり、ジェレジェフ(ありがとう)ブベネン(さよなら)と言って、アフリカ・セネガルの旅は終わりました。あまり知られていない国でしたが、子ども達は何を心に残したのでしょうか?次回も楽しみです。



# インタビュー イギリス

現在、嘉悦大学経営経済学部の准教授を務める傍ら戯曲の翻訳や通訳のお仕事でもご活躍されているサイモン・クレイさん。偶然のめぐり合わせからオックスフォード大学クイーンズカレッジで日本語を学び始め、最初はあまり興味がなかったのが、大学4年生の時に初来日してすぐに「帰ってきた！」という感覚にとらわれ、以来、日本がしっかりと肌に合ってしまったのだそうです。

## ◎日本がご自分に合うと思われたワケは？

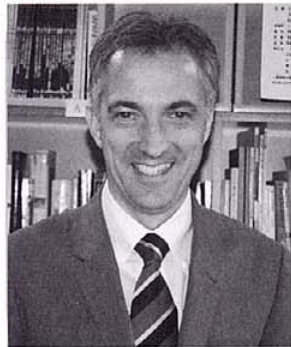
日本人はお互いとても気を遣う、それがすごく好きなんです。それと僕は自分をいつも前にプッシュして、自己宣伝したりということはあんまり好きじゃないので、それがあまりない日本が気に入ったんです。あと、言葉も実際日本に来て使ってみたら面白いと思った。相手によって喋り方がぜんぜん変わってくるし、言葉の遊びもすごく楽しい。日本語はそんなにハッキリ物を言わなくても通じるのも好きなんです。

## ◎来日して困ったことはありましたか？

最初は食べ物がぜんぜんダメでした。生のものがまず食べられなかったし、お醤油の濃い味とかもダメでした。今はイギリスよりも日本の食べ物の方が逆にいいって感じるほどなんですけどね。

## ◎銭湯がお好きですか？

毎週大体1回ぐらい行ってるかな。伝統的な日本らしい雰囲気が好きなんです。そして広くて熱いお風呂の気持ち良さ！僕の行ってる銭湯は下町風で熱い。でも弱いて言われるのが嫌で、ものすごく我慢して入ったら今は慣れてきて。で、時々「あ、外人が入ってる。」っていう顔されて、入ろうとしたら熱すぎて入れないっていう人がいる時はやっぱりちょっとだけ嬉しいです。(笑)



## ◎これからの夢は何ですか？

いろんな翻訳をしてみたいですね。最近童話を英語に翻訳しているんですが、思ったより“子どものためのものを作る”っていうのが大変だったんですけど、とてもいい経験だったので、また挑戦したいなと思っています。

## ◎最後に、日本の人々へメッセージをお願いします。

好奇心をなくさないでください！イギリス人は日本人ほど好奇心がないって感じるんですよ。海外に対する好奇心など、すごく日本人にはあって、これはとても素晴らしいことです。でも以前とくらべたらだいぶ薄れてきているような気がするんで、なくなると非常に残念だなあ、と。あと日本では年上で、長く仕事をしている人が当り前に偉いと思われがちですが、年齢・立場に関係なく相手を尊敬して大事にしてあげなきゃダメだと思うんです。お互いを尊敬し合いましょう！

## 英会話教室

木曜Cクラスを取材しました。講師はオーストラリア出身のスーザン・タニ先生です。テキストを開く前に、まずは「今日は誰か話をしたい人いますか？」の英語で始まります。生徒が最近の出来事、趣味の話、旅行談、自身の近況などから思い思いのことを話すと先生やクラスメイトから質問や意見・感想が出て、話に花が咲きます。英語でどう言うのかわからない言葉や言い回しは先生に訳していただき、その表現に納得。臆病にならずに間違いを恐れず、とにかく話してみることが大切ですよ。その後テキストを使ったレッスンに入ります。先生によると、このクラスで使うのは例文表現を反復するタイプのものではなく、英語で考える力を磨くテキストなのだとか。「ちょっと難しいけど、とても面白くユニークな内容なんです。レッスンを楽しんでもらえると嬉しいんだけど。」とのこと。

先生は「来ないより遅れてでも来る方が良い。」とおっしゃいます。「週1回のレッスンでは英会話上達のため

には時間が足りません。でもまずはとにかく休まず続けることが上達への第一歩です！誰でも最初はすごく緊張していますがレッスンを重ねるうちにだんだんリラックスしてきます。そうすると上達するんですよ。学期の終わり頃にはみんないい笑顔で話すことができるようになります。」スーザン先生はとても明るくユーモアたっぷり、クラスに笑いが絶えません。そんな先生の魔法にかかって、みんな英会話を楽しめるようになるのかもしれない。



## 編集後記

記事をまとめるたびジグソーパズルみたいになって感じます。コトバがびたりと合ったり、当てはまらなかったり…。ピースが欠けている部分もありますが、取材した方の心が少しでも伝われば、と思っています。(クイズの答えは“ライオン”) (K.O)